

保護者様



令和5年度 後期自己評価について(お知らせ)

標記につきまして、国が定めております幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、認定こども園は教育・保育の質の向上を図るため、保育教諭等の自己評価を踏まえ、教育・保育の計画の展開や保育の内容について後期分の評価を終了致しましたので、お知らせいたします。

【評価の目的】

- ・評価をすることで保育教諭等の専門性の向上と共に保育所全体の質の向上を図る。
- ・保育教諭等一人ひとりが、自己の教育・保育を振り返り、基盤となる子どもの理解を深めることで、日々の教育・保育実践の意味を考え、次のより良い実践へと繋げていく。

【評価の方法】

- ① 認定こども園教育・保育指針に基づく保育者のための「自己評価チェックリスト」を使い、第1章から第7章について各々自己評価をし、平均値を出し全体傾向をグラフにしました。
- ② 「保育を振り返る会」を開き、2グループに分かれ保育教諭等が参加をした。自分たちが心を動かされた多くの子どもの成長、そして一年間実践してきた教育また保育を一人ひとりが話し、さらに今後の教育・保育への思いを語り合う会とした。

【今期の評価を通して見えたこと】

- ① チェックリストの結果を令和5年度前期と比較すると、第1章 総則、第3章「ねらい」及び「内容」、第5章指導計画作成に当たって配慮すべき事項、第7章子育て支援が前期より上回る結果となった。第1章においては(1)教育及び保育の配慮事項および前期数値が下回っていた、(2)健康支援の数値が高くなっており、生活をおくる中で子ども一人ひとりの健康状態の把握が行え、必要とされる家庭との連携、および適切な支援が行えたと考える。また、保護者との信頼関係を構築する事で、保護者が求める支援、提供すべき支援がどのようなものであるか、日々の関わりの中で深く考察することが出来た事が何われ、「第7章 子育て支援」が前期より上回る結果に繋がったと考察する。

チーム保育を推進するという観点からも、後期は連携がより深まり、保育教諭一人ひとりの保育力向上に繋がった。

- ② 「保育を振り返る会」では一年間の保育を振り返る中、こども一人ひとりと向き合い、その時感じた思いや感動、捉えたその成長の姿を伝え合うことが出来た。またそれぞれで実践してきた保育を認め合い、共有し、自己の成長も実感する結果となっている。伝え合う中、保護者の温かな支援や、子どもから向けられる信頼、愛情を思い、感謝や喜びを感じ涙する場面や、その責務の重さに身を奮い立たせる保育教諭の姿もあった。自身の事のみではなく、他の保育者の実践に注目し、視野を広げた新たな保育の可能性を見出す場面もあった。さらにチームとしての取り組みや協力が支えとなっていることを事例を踏まえながら伝える等、チームへの感謝と共に、共通認識することができた。保育士としてのやりがいと職務に対する責任と思いを共有する事が出来、今後のより良い保育の実践に繋がるものと考えた。

「人権擁護のためのセルフチェックリスト」は各々が、保育者としての、行動、子どもとの関わりを振り返るためであり、「人権擁護」と言う視点から、自己の関わりを見つめ直し「子どもを尊重する保育」への理解と認識を深めることが出来るものである。前期に引き続き、事前にチェックを行い、自らを振り返ると共に、疑問に思った点などを話し合う事が出来た。今後も指針としてチェックを行う事とした。また、「虐待等の防止および発生時に関するマニュアル」虐待についての「行為類型具体例」について確認を行なった。

今後も自己研鑽に努め、外部研修や園内研修での学びを深めることでより専門性を高め、実践する中で課題を明確にし、共有する事で園全体の質の向上を図る。

これからも保護者の方、一人ひとりのお子さんに寄り添い、保育士として深い愛情を持って、子ども達に向き合うと共に、自己の保育を振り返ることを怠らず、コミュニケーション力を高め、保育力、チーム力の向上に繋げていきたいと考える。



チェックリスト集計

令和5年度 後期

自己評価対象	チェック項目	項目数	「はい」の数	割合
第1章 総則		67	60	90%
	1 教育及び保育の基本と目標	13	12	92%
	2 特に配慮すべき事項	54	48	89%
	(1)教育及び保育の配慮	14	13	93%
	(2)健康支援	20	18	90%
	(3)食育	11	10	91%
	(4)特別支援教育・障害児保育	9	7	78%
第2章 子どもの発達		14	13	93%
第3章 「ねらい」及び「内容」		110	98	89%
	1 保育内容「健康」	22	21	95%
	2 保育内容「人間関係」	22	20	91%
	3 保育内容「環境」	22	17	77%
	4 保育内容「言葉」	22	21	95%
	5 保育内容「表現」	22	19	86%
第4章 低年齢児の保育実施上の配慮事項		40	38	95%
	1 乳児期の保育に関する配慮事項	28	26	93%
	2 満1歳以上～満3歳未満児の保育に関する配慮事項	12	12	100%
第5章 指導計画作成に当たって配慮すべき事項		30	27	90%
第6章 研修と自己評価		15	13	87%
第7章 子育て支援		17	15	88%
	合計	293	264	90%

